

**令和 7 年度 第 2 回八王子市多文化共生推進評議会
議事要点録**

開催場所	生涯学習センター（クリエイトホール）11 階 第 7 学習室
開催日時	令和 8 年（2026 年）2 月 13 日（金） 午後 6 時 30 分～8 時 00 分
出席者	木村座長、奥野評議員、北島評議員、柴山評議員、周評議員 華山評議員、花輪評議員、藤好評議員、松本評議員
配布資料	評議会次第 【資料 1】 令和 8 年度（2026 年度）多文化共生推進事業に関する予算案について 【資料 2】 多文化キッズサロン事業について 【資料 3】 地域日本語教育推進事業について 【資料 4】 認定日本語教育機関について 【資料 5】 留学生支援事業について
公開区分	公開
傍聴者数	1 名

1. 令和 8 年度（2026 年度）多文化共生推進事業に関する予算案について

資料 1 について事務局より説明。

【評議員の発言】

- ・ 物価高対策について、八王子市では十分な補助をしてもらえるとということでもいいのか。
- ・ 今年度と来年度の予算額の増減などはわかるのか。

【事務局】

- ・ 単年度の資金では足りないので、貯金を取り崩しながら予算を組んでいる。
予算の規模も過去最高になる予定。

【評議員の発言】

- ・ 「外国人受入環境整備交付金」は予算に含まれているのか。補助金はなるべく活用したほうがいい。

【事務局】

- ・ 予算に含まれている。「在住外国人サポートデスク」が補助金交付の対象事業となっている。

2. 多文化キッズサロン事業・地域日本語教育推進事業・認定日本語教育機関について

資料 2～4 について事務局より説明。

【評議員の発言】

- ・ 多文化キッズサロン八王子駅前教室は実施時間を 15：30～18：30 までに変更せざるを得なくなっ

た。夏休み明けの昨年9月ごろから、勉強したい子どもの申し込みが急増しており、受け入れ態勢を整備することに苦戦している。また、待機させている子どももおり、成長できる大事な時期を無駄にさせている。これに伴い、支援者に相談のうえ、1日の実施体制を3部制にして時間を区切りながらなるべく多くの子どもを受け入れようとしている。それでも待機している子どもについては、「八王子日本語の会」などの子ども支援を行っている団体に、中学生限定で受け入れてもらっている。拓殖大学の教授を中心とした支援団体にも子どもの受け入れを依頼し、現在何とか待機中の子どもを0にしている。しかし、今後も子どもが増えることを考えると、より工夫しなければならない。

- ・ 由井第一小でも外国籍の児童が増えている。ニッスイのグループに「チルディー」というコンビニ総菜を作る工場があり、子ども食堂の食材をもらいに行った際も外国人が多くいた。1000人弱いる社員のうちの9割が外国籍で、日本のコンビニは本当に外国人に支えてもらっていると感じた。外国籍の社員のお子さんが実際に子ども食堂に来ることもある。多文化キッズサロン八王子駅前教室は現在子どもが多く大変という話があったが、ニッスイやチルディーと連携してキッズサロンのような居場所を作れるのではないかと。一方、高校生たちの支援はどうするのか。(都立)拓真高校には外国籍の子だけでなく様々な子がおり、外国籍の子に特化した教育は行っていないため、中学までは手厚い支援を受けていた外国籍の子どもが、高校入学後もうまくやっけていけるのか心配。高校が社会に出るためのステップとして機能できればいいと思う。子ども食堂にポテンシャルの高い学生や高校生が多く来ているので、大学や高校にポスター掲示やSNSでの周知などを行うことで、支援体制の向上につながるのでは。
- ・ 現在、SSS(スクールサポートスタッフ)の仕事をしており、他の職員たちの会話をよく耳にする。その中には、日本語が苦手な外国籍の子どもの話題が出てくることが多い。しかし現在、人数制限や日本語能力によって、日本語支援を受けられる子どもとそうでない子どもがいるため、不公平感が生じてしまっている。なので、日本語教育専門の教職員とSSSが協力し合って、キッズサロンのような居場所がより増えるといいと思う。
- ・ 現在日本語学校では、幼児教育への興味関心が高い学生が増えており、これに関連した「助っ人活動」があったらいいと思う。
- ・ 外国籍の子どもたちへの教育(幼児教育)はとても大切。日本で幼児教育を受けてきた子どもたちは、日本の集団生活や文化を学んでいるので、日本の学校のカリキュラムについていけるが、日本で幼児教育を受けていない子どもたちは、ついていけない状態になってしまう。なので、現在日本語学校などで学んでいる学生たちが、幼稚園や保育園のボランティアに参加し、日本の幼児教育と日本語を同時に学ぶ場があるといいと思う。
- ・ 保育現場は人手不足でもあるので、良い取り組みだと思う。

【事務局】

- ・ 子ども家庭部保育幼稚園課など関係部署にも確認してみる。

【評議員の発言】

- ・ 学務課で外国籍児童の支援に携わった際、1日あたり2時間を週2回のペースで授業を行う中で、担任も児童もそれぞれ忙しく、「なぜ日本ではこれを学ぶのか」という児童たちの根本的な疑問に対応する時間がなかったことが残念だった。また、八王子駅前教室(キッズサロン)でボランティアをしているが、教材を扱うのが大変なので、タブレットと教育専用のアプリを活用できたらいいと思う。
- ・ 余っているタブレットがあるいいなと思う。

- ・ 多摩にあるベネッセに「外国人支援などの社会貢献事業などの考えはないか」と問い合わせたことがあるが、断られた。外国籍の幼児でも使えるような初歩的な教材があるといい。

【事務局】

- ・ 高尾教室（キッズサロン）でも、大学生たちがタブレットで子どもたちに教えており、タブレットを取り入れている教室があるのだと感じた。

【評議員の発言】

- ・ 国際教室（由井第一小・南大沢小）の発表会に参加した際、先生たちの努力やクオリティの高さをすごく感じた。八王子駅前教室の待機児童で、日本語が得意ではなかった子が、発表会で司会をしていたのを見て、先生たちの教育の力が凄いことを実感した。わずか半年でも子どもはとても成長するので、いい意味で、ほっとけないと思った。
- ・ 同じ発表会の招待カードを職場で見かけて、「行きたい」と言っている職員がいたが、行かなかった。代わりに行きたかったが、「教員ではないから」という理由で行けなかった。興味がある人すべてが参加できるようになるといいと思った。
- ・ 教育関係者などであれば、誰でも参加できたと思う。
- ・ 立川市で支援職をしており、現場で外国籍の方が増えている中、立川市ではあまり外国人の支援がないので、彼らのつなぎ先や将来の行き場についてどうなるのかという話題が多くなっている。一方、八王子市では様々な支援を行っているので、自治体同士で連携して支援の輪が広がればいいと思う。
- ・ この評議会では外国籍の子どもの支援についてよく議論するが、それ以前に、子どもたちには必ず「親」がいて、彼らの「就労」の現場でもう少し何かできないかと思う。東京都商工会連合会の「多摩地域ものづくり」という冊子の中には、八王子市の企業の外国人受入事例などが掲載されている。八王子市の事例ではないが、日本語学校と企業が連携して、外国人の就職へつなげた例もある。実際に外国人の受け入れに挑戦したこともあったが、言語の壁により意思疎通が困難な場合が多く、うまくいかなかった。この冊子には、外国人の受け入れの成功事例が多く掲載されているので、参照してほしい。18歳までの支援を中心にこの評議会は議論が進むが、日本の労働人口の減少や、外国籍の子どもたちの将来を考えると、就職まで見据えて支援を行う必要があるのではないか。
- ・ 「就職まで見据えるべき」とのことだが、日本での就職を目標にしたうえで支援はしている。また、企業側は、日本語能力試験 3・4 級程度の取得を推奨することが多いが、実際に取得したうえで働き始めると「使う日本語が違う」「(学んだ日本語が) 職場で役に立っていない」と言われることがあるらしい。しかしそれは、就職先での支援や経験を重ねながら適応していけばいいのではないか。決して、子どもたちの支援だけを考えているわけではない。
- ・ 実際、子どもたちは日本の学校を卒業した後、就労等のために戻ってきて、定着してくれるのか？
- ・ 戻ってきてくれる子どももいるし、高校生や大学生、社会人になった子どもたちが、お世話になった八王子駅前教室でボランティアをしたいと言ってくれるケースもある。
- ・ 自分も妊娠中に（八王子）駅前教室で日本語を学んで、現在日本で働いている。
- ・ 資料 2（多文化キッズサロン事業について）の裏面「各教室の在籍者数等」は、現時点の人数を示しているのだと思うが、この数字は、在籍期間（1 年間）で決められているのか、それとも子どもの出入りがあるのか。（出入りがある場合）どれくらいの頻度で人数の変動があるのか。
- ・ 人数の変動を反映させることは難しく、延べ人数であれば把握できる。出入りの頻度は多い。

- ・ キッズサロンで関わった子どもたちは、出て行ってしまった子も含め、戻ってくるのか。
- ・ 様々なケースがあるが、戻ってくる子どもは一定数いる。
- ・ 来年度から中央大学では「ボランティアと公助」という講義が始まるが、授業の一環として講義回数のうち7回を南大沢に新設される多文化キッズサロンで実習させる予定。3年程度この講義を担当した後は、学生たちがボランティアサークルのような形で引き継いでくれたら嬉しい。以前、北野教室で見学をした際、カウンセラーの方がいたが、どのような役割を担っているのか。
- ・ 「相談日」という名目でカウンセラーの方に来てもらい、子どもたちや支援者の様子を見てもらうことで、気になる行動を共有し、適切なアドバイスをもらっている。
- ・ 自分が担当する学部では、ブラジルのハーフの学生が多く、日本にいと「ブラジル人」ブラジルにいと「日本人」と言われた経験があるという。彼らのような「お兄さん」的な存在の人が、子どもたちと関わることで、(精神面で)何か手助けになることがあるのではないかと。一方、近年外国人への風当たりが強いが、多文化キッズサロンの安全性について、何か対策はしているのか。

【事務局】

- ・ 特に何か対策等はしていないが、子ども同士ではトラブルは少ないのではないかと。

【評議員の発言】

- ・ 以前、「自分の国と日本での考え方が違う」という話を子どもからされたことがあったが、本人の考え方は間違っていないということを伝えた。政治的な理由の狭間に子どもたちはいる中、学校ではその子ども考えを正しいと言えないと思うので、支援者は、それを尊重してあげなければならない。また、留学生が何か意見を記載する際、「八王子市民 氏名」と書かれており、自分が八王子市民であることを言いたかったのだなと思った。
- ・ 先ほど、ハーフの子どもの話が出てきて思ったことがある。小学校の現場では、母親が外国人の場合に、トラブルが起きることが多いと感じる。なぜだろうと考えたが、おそらく、母親から日本の文化や常識を受け継いでいないため、親が日本人の子どもとぶつかるのではないかと考えている。ぶつかること自体は、学ぶこともあるので悪いことではないと思うが、対応する先生たちはいつも頭を抱えている。先生たちは、みな日本人として子どもたちを扱うので、「なぜ自分たちはこんなに怒られてばかりなのだろう。」とされていると思う。
- ・ 日本語がある程度できるようになると、そういうことが起こるようになる。以前、中学校の英語の教科書内に日本語のことを紹介する文があった際、意味が分からないと言われたことがある。例えば、日本の正月について紹介してある文があると、「重箱とは何か。」「着物はいつ着るのか。」と、日本の文化について知らないがゆえに、内容について理解できないことがあった。

3. 留学生支援事業について

資料5について事務局より説明。

【評議員の発言】

- ・ 助っ人活動の謝礼である桑都ペイでの支払いは、桑都ペイを受け取るために、別途アプリを入れなければならないのか。
- ・ アプリは多言語対応になっているのか。

【事務局】

- ・ アプリのダウンロードは必須で、今後別途案内をする。(アプリの) 多言語対応はしていないが、助っ人活動に参加する学生は、ある程度日本語を理解できるので、大きな問題はないのではないかと。
- ・ (桑都ペイについては) 今年度、18歳未満の子どもがいる家庭に1名あたり5,000円分のポイントを付与した。また、物価高対策として、桑都ペイを使うことを検討中。

【評議員の発言】

- ・ 助っ人留学生に登録する学生は増えているのか。

【事務局】

- ・ 最近では、日本語学校と連携する事業が多く、その際にまとめて登録してもらうことが多い。

【評議員の発言】

- ・ ゲストティーチャーとは、どんな形で実施しているのか。

【事務局】

- ・ 母国に関する文化交流や、一緒に給食を食べる、といったことをする。

【評議員の発言】

- ・ ゲストティーチャーの実施を希望する場合はどうしたらよいのか。また、実施したい場合、条件などはあるのか。

【事務局】

- ・ 多文化共生担当までお伝えいただければ、対応できる。また条件等はないが、募集期間が必要なため、ある程度期間に余裕をもってお知らせいただくと、こちらとしても対応しやすい。

【評議員の発言】

- ・ 予算上、助っ人留学生の参加人数の上限はあるのか。

【事務局】

- ・ なるべく希望に沿うようにしたいが、一応上限はある。

【評議員の発言】

- ・ 留学生に参加したい意思があるなら、皆参加したほうが良いと思う。

【事務局】

- ・ 学校によって年間スケジュールが決まっており、助っ人活動日と重なってしまうと参加できずに終わってしまうケースもある。

【評議員の発言】

- ・ 外国人の方が行うALTの授業は、日本人が行う授業よりも好評なので、助っ人留学生事業でも取り入れてみたらどうか。
- ・ 助っ人留学生は、大学生が多いのか。それとも日本語学校の学生が多いのか。
- ・ 出身国はどこが多いのか。

【事務局の発言】

- ・ 大学生も日本語学校の学生もいる。また、参加する学生のほとんどがアジア系の国出身。

【評議員の発言】

- ・ 自分の娘も留学生だが、留学生向けの就労支援は、どこで何を調べたら良いのか。
- ・ 「アデコ」という人材会社では東京都の資金を使って、日本語学校の留学生を企業へ紹介することで、お

試し期間として留学生にアルバイトをしてもらい、問題なければ正式に就職してもらい、という事業を行っている。また、似たような事業を「東京しごとセンター多摩」でも行っている。

5. その他意見

【評議員の発言】

- ・ 現在、子どもの日本語教室だけでなく、大人の日本語教室も満員なことが多い。日本語教室を提供できるように、場所や時間の確保に向け、施策を考えてもらいたい。
- ・ 大人版の助っ人制度を作ればいいのではないか。例えば地域のイベントに、留学生だけでなく様々な大人の外国人に参加してもらい、実践的に日本語を学ぶとともに、文化や生活の違いについても理解できるといいのではないか。また、日本にいる外国人は、(日本のコミュニティに参加することへの)恐怖心を抱いていることが多いが、外国人を受け入れてくれるイベントなどがあれば、居場所に繋がって、安心感につながるのではないか。
- ・ 春節の時期に中国へ帰る子どもに対し、「(日本で)待っているからね!」と言ったら、とてもうれしそうにしていたのが印象的だった。

【事務局】

- ・ 学習支援課で行っている日本語教室でも、参加者が増えて、教室が狭く感じるという。しかし、毎週同じ日時に場所を押さえようとすると、年間を通じてその場所を確保しなければならなくなるので、難しい部分があると聞いた。また、日本語を教える際の工夫として、日本語教師の方たちが各々の方法で日本文化やマナーを理解してもらえるようにしていると伺った。